

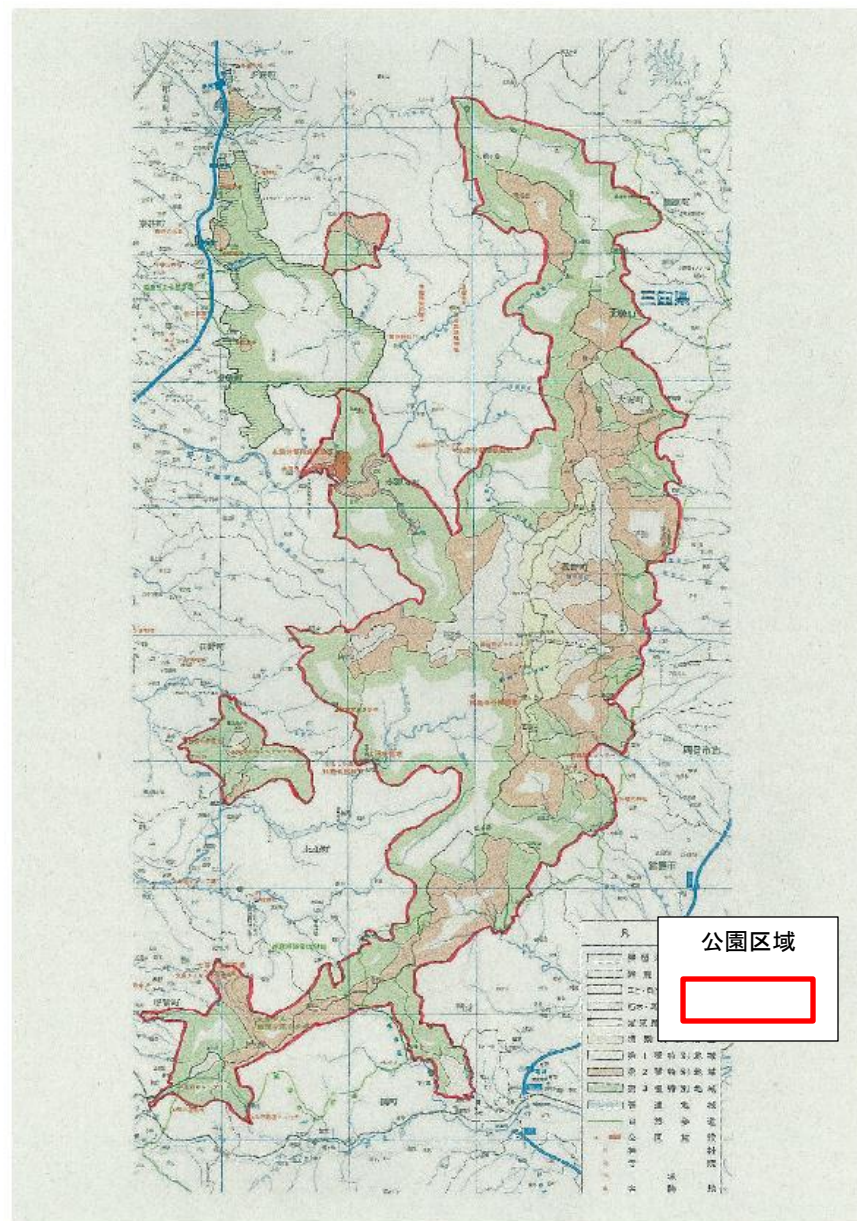
第29回自然公園等小委員会

国立・国定公園の公園区域及び公園計画の変更について

鈴鹿国定公園の 公園計画の変更について

鈴鹿国定公園の概要

- 指定
一昭和43年7月22日
- 面積
29,821ha
うち、三重県地域 12,708ha
滋賀県地域 17,113ha



非火山性連峰・鈴鹿山脈

～南北の環境変化が産む豊かな地質と植生～

- 伊勢湾水系と琵琶湖水系とを東西に分ける標高1,000m前後の鈴鹿山脈の主稜線に位置する
- 御池岳、藤原岳、御在所岳などからなる非火山性連峰
- 北部は石灰岩質でカルスト地形、中南部は花崗岩質の急峻な脊梁山岳地形
- 本州で陸地幅が最も狭い部分に位置。変化に富んだ環境を反映した多様な植物相



藤原岳

変更のポイント

○生態系維持回復計画の追加

- ・2000年代初頭頃から課題になっている、ニホンジカの採食圧による貴重な植物やササ原の衰退による生態系への影響等に対応するため、生態系維持回復計画を追加するもの。



シカの生息域の拡大

■滋賀県・三重県においては、県内を5km四方のメッシュで分け、シカの生息状況の調査が行われている。



<滋賀県>

昭和56年度の環境省の調査：全181メッシュ中94メッシュ、51.9%で確認
平成22年度の調査では、167メッシュ、92.2%を占め、ほぼ全域に分布

<三重県>

昭和53年度の環境省による調査では、全293メッシュ中148メッシュ、50.5%で確認
平成22年度の調査では、238メッシュ、81.2%を占め、ほぼ全域に分布



1995年の御池岳斜面。
ササ原と灌木帯。



2012年の同じ場所。
ササが消滅。カンスゲ、イワヒメワラビにかわる。

シカの個体数の増加

- 滋賀県においては、生息密度指標として、「糞塊密度」と「目撃効率」の2つの指標の推移をモニタリングしている。
- 三重県においては、生息密度指標として、「糞粒法」によりモニタリングしている



これらの調査結果を踏まえ、個体数を推定したところ、
＜滋賀県＞

年度	県の個体数(頭)	うち、湖東地域及び湖南地域東部
16	20,000	7,051
22	47,000～67,000	17,597～25,085

＜三重県＞

年度	県の個体数(頭)	うち、四日市・伊賀地域
16	39,601	7,071
22	51,803	9,940

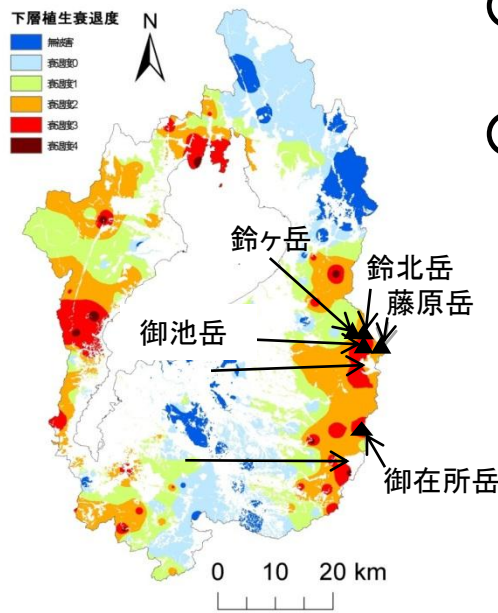
ここ数年で2倍近く、2倍以上に増加している。

植生への影響

■ 滋賀県においては、平成24年度に森林衰退度の調査を実施。



鈴鹿山脈のほとんどの地域において、下層植生の衰退が進んでおり、場所によっては、表土の流出や土壌の浸食も見られる状況になっている。



(平成24年度調査 滋賀県)

- 下層植生のササが消滅し、シカの忌避植物であるバイケイソウ、イワヒメワラビやアセビなどに遷移。
- 御在所岳のアカヤシオ、シロヤシオ等のツツジ群落や御池岳のオオイタヤメイゲツ林は貴重な植物群落であるが、ここ数年でシカの剥皮被害。

バイケイソウ(ユリ科)の繁殖が年々目立つようになってきた。有毒のため、シカが食べない。他の草本が消失後に繁殖する。



外来種の侵入

<滋賀県>

要注意外来生物リストに登録されているシマリスが野生化。数年前頃から登山者等に目撃されており、滋賀県においては生態系に悪影響を及ぼす外来種・移入種に選定。

<三重県>

要注意外来生物リストに登録されているハルザキヤマガラシが野生化している。平成20年頃から藤原岳山頂付近で見られていたが、現在では群生状態で繁茂。



シマリス(御池岳付近)
確認頻度は高い。



ハルザキヤマガラシ繁茂状況
(藤原岳山頂付近)

鈴鹿生態系維持回復事業の追加

鈴鹿国定公園全域において、鈴鹿生態系維持回復事業を追加。

- 現状の調査、検討
- シカの防除や外来種駆除
- 踏み荒らし防止や表土の安定
- 事業の効果検証のための、モニタリング調査
- より効果的な事業実施に向けた調査研究及び実証実験

